

曹洞宗総合研究センター 第15回学術大会 プログラム

開催日 平成25年10月22日(火)～23日(水)

会 場 曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

第1部会 3階 桜の間

第2部会 3階 蘭の間

第3部会 4階 芙蓉の間

大 会 日 程

1、開会式 10月22日 9:30 (桜の間)

2、シンポジウム 10月22日 13:00 桜の間

◇『葬送儀礼と民俗』刊行記念 「これからの葬儀を考える」

14:00 蘭の間

◇ ころろといのちの支援 ―自殺対策と宗侶、寺族

10月23日 10:00 桜の間

◇ 明治期の曹洞宗教団

3、個人研究発表 10月22日、23日 (午前の部 10:00～ : 午後の部 13:00～)

第1部会 桜の間

第2部会 蘭の間

第3部会 芙蓉の間

第1日(10月22日)2～4頁

第2日(10月23日)5～7頁

第1部会 <桜の間>

午前の部（10時～11時40分）

10:00

1. 適温焼香の実践 ― 宗侶の焼香法は不適切

東京都高岩寺住職 来馬明規

2. 葬送儀礼について ― 伝統的民俗と仏教的意味付け

センター研究生 寺門典宏

3. 現代社会に求められている供養とは ― ペット供養からの比較検討

センター研究生 鷲山晃道

11:00

4. 曹洞宗における数珠を用いた布教・教化方法について

センター研究生 上月泰龍

5. 対象喪失・悲嘆に対する「支え」を考察する

センター専任研究員 久保田永俊

午後の部（13時～16時）

13:00

<シンポジウム> 『葬送儀礼と民俗』刊行記念 「これからの葬儀を考える」

平成25年3月に研究成果として『葬送儀礼と民俗』を刊行しました。このシンポジウムでは、研究成果として、現代の葬儀で消えつつある民俗儀礼や法具が持っていたはたらきや、昨今の葬送事情を報告いたします。また外部講師からの講演をふまえて、現代の変わりゆく葬儀に対して、儀礼を執行する僧侶として葬儀をどのようにとらえ、どのように葬儀を営んでいくべきかを考えていきたいと思います。

コーディネーター 平子泰弘（センター専任研究員）

1. 研究報告

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①葬送儀礼の持つはたらきと葬儀の現在 | センター主任研究員 栗谷良道 |
| ②新たな葬送の展開 | センター研究員 相澤秀生 |
| ③今後の葬儀をどう考えていくか | センター客員研究員 椎名宏雄 |

2. 講演

朝長廣太郎氏（株式会社セレモアつくば常務執行役員）
津城寛文氏（筑波大学大学院教授）

3. ディスカッション

※途中休憩あり

第2部会 ＜蘭の間＞

午前の部（10時～11時40分）

10：00

1. 寺族の「保護」は可能か

女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐

2. 農地解放を予言した越智道順師と宗門の財政問題

愛知県龍潭寺住職 別府良孝

3. ソーシャルメディアを活用した布教教化の可能性

11：00

センター研究生 阿部宗道

4. 体験型仏教研修における回心の研究 ― 事例報告を中心に

センター研究生 君島真実

5. 「宗教の消費化」と安心の確立 ― 救いとしての帰依・受戒の機能

センター専任研究員 関水博道

午後の部（13時～16時）

13：00

6. 緩和ケアに関わる宗教者に求められるもの ― CPE を参考に

センター研究生 澤城邦生

7. 苦しみに寄り添う― 僧侶がかかわることの意義と展望

公益財団法人中村元東方研究所研究員 西岡秀爾

14：00

＜シンポジウム＞ こころといのちの支援 ―自殺対策と宗侶、寺族

基調講演 馬場優子氏（足立区こころとからだの健康づくり課長）

東京都足立区では近年、区全体を挙げて都市型の自殺対策モデル作りに着手し、着実な成果につながっています。その中心が、自殺者を減らすための「生きる支援」のネットワーク作りです。

基調講演として、この活動を進める馬場優子氏をお招きし、この取り組みについてご報告頂くとともに、現状と課題、そして僧侶・寺族に対して期待することなどをお話し頂きます。

パネルディスカッション 馬場優子氏 × こころの問題研究プロジェクト員

過去3年間にわたって開催された現職研修・寺族研修会での反応を踏まえながら、僧侶・寺族が自死問題に関わる意味と意義、ゲートキーパーとしての役割について、討議します。

第3部会 <芙蓉の間>

午前の部 (10時20分～11時40分)

10:20

1. 『禅苑清規』に対する靈芝元照の評価

センター講師 山本元隆

2. 愚中周及『稟明抄』考 — 『宗鏡録』受容の一考察

11:00

駒澤大学仏教経済研究所研究員 千葉 正

3. 『釈禪波羅蜜次第法門』における五門禅について

駒澤大学大学院 大松久規

4. 永楽北蔵の入蔵禅籍

センター客員研究員 椎名宏雄

午後の部 (13時～15時)

13:00

5. 近世曹洞宗の僧録設置について — 越中国の僧録設置から考える

駒沢学園女子中学・高等学校教諭 永井俊道

6. 近世曹洞宗における僧侶養成制度とその変容について

一般財団法人群馬地域文化振興会常務理事 山本世紀

7. 江戸期の授戒会について — 越後新発田宝光寺配下寺院を中心として

14:00

新潟県永泉寺住職 深井一成

8. 栄西の法名について — えいさい・ようさいの発音

花園大学非常勤講師 舘 隆志

9. 天童山の晦巖大光について — 道元禅師が参じた阿育王山の太光長老

駒澤大学教授 佐藤秀孝

10. 両祖の「出家」義再考

駒澤大学総長 池田魯参

第1部会 ＜桜の間＞

午前の部（10時～11時40分）

10:00

＜シンポジウム＞ 明治期の曹洞宗教団

近代宗門の歴史及び教学の構築過程については、これまで宗門内だけでなく仏教界全体を見渡しても、十分な研究がなされているとはいえません。本研究プロジェクトは、教学構築の過程を明らかにし、「宗門の近代化」を再検討するものです。このシンポジウムでは、これまでの研究報告を通して、さらに議論を深めてまいりたいと思います。

基調講演 「明治政府の宗教政策－仏教から神道へ」

センター客員研究員 圭室文雄

研究報告

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 曹洞宗教団の再編成－「末派総代議員会議」を中心に | センター専任研究員 宮地清彦 |
| 2. 両大本山の動向 | センター客員研究員 尾崎正善 |
| 3. 大内青巒居士の研究 | センター専任研究員 菅原研州 |
| 4. 『修証義』の成立と展開および今後の課題 | センター客員研究員 吉田道興 |

午後の部（13時～15時40分）

13:00

1. 布教モデル研究「就活生のための禅講座」実施報告

センター研究生 上月泰龍・鷲山晃道・阿部宗道・君島真実

13:40

2. 弟子丸泰仙老師が目指したもの ― 生誕100年を機に顕彰をする

防災安全協会 弟子丸博道

3. 坐禅における「重心」の考察

センター副主任研究員 小杉瑞穂

4. 高校生における仏教坐禅教育とその影響について

センター研修生 大澤香有

5. 「禅社員研修」のニーズに見る、現代社会における「禅」の価値

15:00

センター専任研究員 宇野全智

6. 発達障害児理解と坐禅 ― 蒲原梅花幼稚園における実践より

蒲原梅花幼稚園園長 鏡島真理子

7. 日本語による般若心経研究 ― 教化の視点から

センター講師 井上正憲

第2部会 <蘭の間>

午前の部 (10時～11時40分)

10:00

1. 「伝光義」編纂の試み ― 平等と個の尊重を目指す教化論

センター修了生 渡部鋭幸

2. 教化資料デザインの一考察 ― 坐禅リーフレット篇

センター委託研究員 守長修浩

3. 公益法人としての寺院 ― NPO 法人と宗教法人の比較

11:00

センター研修生 本多清寛

4. 過疎地における寺院の取り組み― 巡礼地での実態調査を通して

センター研修生 堀江紀宏

5. 寺院・教団の未来予測試論 ― 人口動態予測を基にして

センター専任研究員 平子泰弘

午後の部 (13時～15時40分)

13:00

6. 備中円通寺修行時代の良寛和尚の一考察

岡山県大通寺住職 柴口成浩

7. 『卍山広録』所収の源翁心昭の塔銘について

駒澤大学大学院 上野徳親

8. 建綱と建擲の関係 (八) ― 瑞長の弟子長雲

14:00

岩手県正洞寺住職 熊谷忠興

9. 天桂伝尊の戒律観

センター副所長 志部憲一

10. 瑩山禅師撰『坐禅用心記』における三学の定の解釈 (二)

駒澤大学大学院修了 下條 正

11. 『伝光録』鑑智僧璨大師章の一考察

15:00

センター研究員 加藤龍興

12. 『伝光録』芙蓉山道楷禅師章の一考察

センター研究員 小早川浩大

13. 教外別伝・見性成仏等をめぐる両祖の違いについて

センター主任研究員 竹内弘道

第3部会 ＜芙蓉の間＞

午前の部（10時～11時40分）

10:00

1. 時節の経験的背景 — 『従容録』「第二則達磨廓然」について

駒澤大学大学院 河村康仁

2. 本山版『正法眼蔵』の対校本について

駒澤大学大学院 秋津秀彰

3. 『正法眼蔵』「龍吟」巻について

11:00

センター研究員 石原成明

4. 『正法眼蔵』における「見性批判」について（続）

センター主任研究員 栗谷良道

5. 『正法眼蔵一仏性一』の解釈（4）

中世文学会会員 神谷 隆

午後の部（13時～16時）

13:00

6. 道元禅師における「阿羅漢」の定義

駒澤大学大学院 山浦 歩

7. 道元禅師の実相思想

センター研究員 清野宏道

8. 道元禅師における祈りの一解釈

14:00

駒澤大学大学院 西澤まゆみ

9. 道元禅師の撰述書からみる鵝湖禅師観

センター特別研究員 清藤久嗣

10. 道元禅師成仏論における成仏の条件について

センター専任研究員 菅原研州

11. 『道元禅師和歌集』の考察（三）

15:00

センター特別研究員 丸山劫外

12. 「施財偈」考

センター専任研究員 古山健一

13. 『見性成仏論』における修行論について

鶴見大学仏教文化研究所兼任研究員 古瀬珠水

14. 正信論争考（十一） — 樽林博士の信について（三）

山口県龍昌寺住職 竹林史博

[illegible]

※プログラムは変更になる場合があります。

曹洞宗総合研究センター

〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内

電話 03-3454-7170

2013/9/30